



秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会
平成17年度OB会会報第1号 平成18年1月発行
題字： 秋田県ことばを育てる親の会
会長 辻久視 先生
命名者： OB会事務局長 遠藤昌夫 先生

天に鳴響む大主 開けもどろの花の 咲い渡り
あれよ見れよ 清らやよ 地天鳴響む大主
〈 鳴響むーとよむ 〉
〈 開けもどろの花ー 太陽（大主）が水平線から
昇る瞬間に天上や海原に広がる光 〉
～「おもろさうし」より～

〈 挨拶 〉

「新生OB会に期待する」

秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会
会長 伊藤 薫

新年あけましておめでとうございます。

皆さんいかにお過ごしでしょうか。

ご存じのように、聴言研OB会は、今年で満10年を迎えたことから、過日OB会拡大役員会を開き、今後の存続についての是非について話し合いました。

席上、存続する場合、どんなことがネックとなり、またそれをどのようにうしてクリアすればよいか等について意見交換をしました。特に大事なことは、会員の確保と同時に、聴覚言語教育に対する会員の意識の確認（調査）が欠かせないのではないかということ強く感じた次第です。

さて、これまでの10年間を顧みれば、決して順風満帆であったとは言えなかったのですが、今日までOB会が存続し支援できたのは皆さんの物心両面でのご協力があったこととありますと共に、事務担当者のサポートのおかげであり、心から深く感謝申し上げます。

最後に、会長としては是非ともOB会を存続してほしいと思っています。

そのためには、現職会員がOB会に対して、「今何を求め、何を必要としているのか」の吟味をすることが大事かと思っています。また、新生OB会の発足には、役員人事の刷新と同時に「不易流行」という教育観に立った聴覚言語教育の検討も必要ではないかと考えます。

では皆さん、本年も幸多い年でありますよう念じて挨拶といたします。

* 裏面に拡大役員会の概要を載せております。お読みいただきまして「平成18年度の取組への協力」についての意向調査に回答をお寄せくださいますようお願いいたします。

拡大役員会の概要

(平成17年11月23日(水)開催)

- 1 10年目を迎えた本OB会の18年度以降の在り方、課題について協議するために拡大役員会を開催しました。14年度から17年度までの2期の役員を対象に参加を呼びかけたところ、伊藤 薫、遠藤昌夫、梅田信彦、石井辰徳、嵯峨裕子、本郷 光、進藤路子、高橋恒治の8氏の参加を得て、開会しました
- 2 現況分析とOB会の役割などについて、昼食休憩の時間も含め、4時間近く、熱のこもった意見交換となりました。
- 3 この日の結論として、次の2点に絞ることができました。
 - (1) 16年度実施のアンケートでも存続を望む声が多く、これまでとは違った企画を前面に出して、OB会の実践を強化していく必要があること
 - (2) 来年3月開催の定例役員会で、18年度の計画を具体的に話し合うべきであること
- 4 役員会開催の前に、役割を担う積極的な会員によるOB会とするためにも、18年度の会員確認と、意向調査を行うことになりました。
- 5 今回の拡大役員会で意見交換された内容の大筋は次のとおりです。
 - (1) 会費納入、OB会員の意識等について
 - ① 会員数に比べれば会費納入がよいとは言えない。事務局が年度ごとに交替していることも一因である。以前のように事務局はOB会員が担当し、固定すべきだ。
【参考】14年度32名、15年度21名、16年度15名、17年度24名(10月末現在)
 - ② 会員の顔ぶれを見ると、全難言の全国大会秋田大会を経験したか否かの違いがうかがえる。経験していると仲間意識が強い。
 - ③ 14年度から、会報「潭潭」が再発行され、この教育の歴史を知ることができている。OB会の意義や、存続の必要性に大きく貢献している。会報は今後も継続すべきだ。
 - ④ 会報発行には担当者、郵送代などの負担が大きい。支出の多くを会報へ向けることがあってもいい。来年度、納入会費でまかなえなかったら、「特別会計」から小出ししても構わない。
 - ⑤ OB会が長続きするためには、次をどうするかを常に考えておきたい。研修講師にしても一人ではなく複数体制が望ましい。
 - (2) OB会の目的について
 - ① 会則では、「会員相互の親睦と県聴言研への協力」がある。親睦を図るための企画は難しい。県聴言研への協力支援だけでもよいではないか。
 - ② 県聴言研の依頼でOB会が動くというこれまでの姿勢ではなく、OB会の主体的な事業として企画することも必要だ。例えば、聾学校の企画に併せて、言語に関する研修の場を設ける、など。
 - ③ 教育センターの研修にも「聴覚・言語」の講座がない。新担任の研修も数えるしかない。教室担当者の置かれている状況はこれまで以上に深刻だと思われる。
 - ④ 教室で幼児を扱っていない。面倒な症例も減っている。症例経験、指導歴に厚味がなくなっている。担当者がOB会に期待するところが大きいのではないか。
 - (3) OB会員と現職との接点について
 - ① OB会の意義をもっと現場にPRしていいのではないか。
 - ② 「現在の教室担当がだれで、教室を離れた人が今どこにいるのか」といった情報が入ってこない。この教育の充実に向けても、点になっている人材を線で結ぶことも必要である。OB会員になっていない教室経験者の力も欲しい。
 - ③ 教室担当者が研修の講師になってもいい。遠慮が見られる。小さい支援が大切だ。

【以上 報告文責 高橋】

潭々

秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会会報

平成18年11月発行

白鳥の大きき頭上越ゆる時 (吉村ひさ志)

鱚のみひらきし目にまた雪来 (山上樹実雄)

「美しい国、日本」と聴言OB会

会長 高橋恒治



大胆にも安倍総理の目指すものと、小さなOB会を並べてしまいました。

特殊教育の枠組みが大きく変わります。どうしても新しいものが注目されている、昔のものは・・・と思われがちです。教室を担当したのは大分前だし、今は役に立ちそうにないからとOB会への所属を遠慮するようになる気持ちも分かります。

「美しい国・・・」は忘れてきた、置き去りにしてきたものをなんとかせねばということです。私たちのOB会の取り組みにも、これまで取り組んできたことに思いを傾け、実現できなかった夢を語る、一線を退いた後に取り組んでいることを提供するところに意義があるのではないのでしょうか。

一例として特別支援教育があります。「支援」という言葉に違和感を抱く人もいます。いずれにしても特別支援教育は、歴史と伝統ある特殊教育を取り込んで、今世紀にふさわしい新しい教育システムの構築を目指していくものです。

特別支援教育を語るときの大切な観点は、一人の子どもを障害の窓口から、さらに狭い聴覚言語の面だけから見たり、担当一人だけで見たりするには限界があるということです。全体を通して見る、人間の持つ五つの感覚をはぐくむ幅広さが求められています。

過日、漫画家倉田真由美さんが、「新聞配達の日・新聞少年の日」(10月15日)にちなんだ広告の中で、次のように書いてありました。「・・・。近ごろはニュースもインターネットで、という人が増えています。でもたとえ同じ記事を読むとしても、パソコンと紙とでは、不思議とまったく違う感覚を抱きます。私は『紙で読む』ということは、とても素晴らしいことだと思うんです。新聞の手触りや広げるときの音、紙やインクのおい。そう、きっと新聞を読むときは五感を使っているんです。だからいい記事を読んでいるときは表情は柔らかくなり、腹立たしい記事のときは新聞を持つ手に力が入ります。・・・」

ハイテク機器のよさを認め、活用しつつ、狭い感覚活用に陥る危うさを防ぎ、補う必要があります。OB会のみなさんには聴言教育担当以前あるいは担当以降にかかわった教育全般のなかで培った五つの感覚に関して様々なものを持っておられます。聴覚・言語障害教育OB会ではなく、五感教育OB会のつもりで、さまざまなテーマを話題に取り上げて語り合ひましょう。OB会員はまだまだ現役、これからも出番がたくさんあるのですから。

第34回秋田県聴覚・言語障害教育研究大会から

平成18年8月10日・11日の二日間、由利本荘市のウェルサンピア秋田において、上記の研究大会が開かれ、聴言研OB会から4名参加しました。現職の先生たちとの懇談や講演の受講等で、充実した研修となりました。

<8月10日(木)>			
開会行事	(1) 聴言研会長あいさつ	秋田市立保戸野小学校長	羽川 誠
	(2) OB会会長あいさつ	秋田県聴言研OB会長	高橋恒治
	(3) 実行委員長歓迎のことば	由利本荘市立鶴舞小学校長	安倍武義
難聴部会	話題提起者	能代市立第五小学校教諭	田代和彦
		秋田市立將軍野中学校教諭	藤原和子
	指導助言者	特別支援教育課障害児教育指導員	石井辰徳
	司会者	潟上市立天王中学校教諭	鈴木栄子
通級部会	話題提起者	大館市立桂城小学校教諭	進藤拓歩
		湯沢市立湯沢西小学校教諭	佐藤尚子
	指導助言者	元山本町立森岳小学校長	梅田信彦
<8月11日(金)>			
講演	講師	独立行政法人国立特殊教育総合研究所 教育支援研究部総括研究員	笹森洋樹
	演題	「特殊学級、通級指導教室における発達障害児への支援と期待される役割」	
閉会行事			

講演から

講師の先生自身の教育実践に基づき、通常学級における発達障害児の困り感について分かりやすく説明してくれました。対象となる子どもは集団で学ぶ難しさがあるために、周りの理解と配慮が大切であること、そして、その配慮は適切な「かかわり」と「環境」であるとのことでした。適切な環境の中でも「失敗を責められず成功を認められる」環境づくりが大切で、そのため教師は適切な対応が求められるとのことでした。

また、通級指導教室は子どもが在籍学級で安定して学習することができるように、子ども・保護者・担任と連携しながら次のことを大切にしていこうであるとのことでした。

- 子どもとともに、持っている力を確かめる・自分で課題解決できるようにしていこう
- 保護者とともに、子どもの理解を深め援助の仕方を一緒に学ぶ場
- 担任とともに、子どものもっている力を引き出せるように、配慮と工夫を考える場

それから、地域のセンターとして、専門家チーム・巡回相談員として校内の支援体制へのサポートをしていく役割も担っているとの話が印象的でした。

「共に育ちましょう」

総合教育センター 本郷 光

昨年度まで2年間勤めた川添小学校の校門のそばに、「共に育ちましょう」と刻まれた教育碑がある。国語教育で有名な芦田恵之助先生の言葉である。その碑の裏には、「共に育ちましょうは、私の教育信念を標語化したものです。教育の行われる所、たとえば家庭に於いて、一家のこらず共に育ちましょうとこいねがい、学校では師弟学友ことごとく共に育ちましょうとはげみ、隣部落の人々が相共に育ちましょうとはかるようになったら、世はきわめて平和なものになるでしょう。私は七十九歳の今年まで、人心づいてから思いを教育にひそめてようようこの一標語に到着しました。そして今のところ、これ以上のものを考え得ませんのでそこに案じているのでございます。」と刻まれてある。この「共に」という言葉からは、「教育は共育なり」が連想される深い言葉である。

この小学校の特殊学級にKくんという当時5年生の男の子がいた。Kくんは明るく元気であるが、予定変更が苦手な子どもであった。また、動物にとっても関心があり、動物のことならなんでもよく知っていた。特にイルカやペンギンのこととなると物知り博士に変身する。しかも「将来は動物園の飼育係になりたい」という夢をもっていた。

特殊学級では、Kくんのこの興味関心を生かし、大森山動物園への校外学習を年間計画に組み入れた生活単元学習を展開した。ある日、Kくんは動物園の校外学習で飼育係の体験をし、そのことを「ぼくの動物園がんばり日記」としてまとめ、交流学級の5年生を招待して発表会を行った。自信たっぷりに発表するKくんを交流学級の子どもたちは驚きをもって見ていた。また、Kくんの出題する動物クイズにも真剣に答えていた。

そして、時間の終わりにKくんは、5年生一人一人に手作りの動物のしおりをプレゼントした。5年生の子どもたちは「Kくんがこんなに動物のことを知っているなんてすごい」、「動物のことで新しく知ったことがあった」、「Kくん、飼育係になりたいという夢が実現できるようにがんばって」などの感想を言っていた。後で、教室に帰ってから、Kくんからもらったしおりを宝物のようにしていた子どもがいたことを担任から聞いた。

Kくんの夢をテーマにして単元を構成し工夫していった教師、5年生の友達に喜んでもらえるようにクイズを考えたりしおりを作ったりしたKくん、Kくんのことを知り、しおりを大切にしていた5年生、それぞれが共に学び共に育つことができた授業だった。

この小学校は十数年来国際理解教育を推進している。「人と人が違いを超えて互いに分かり合い、共に生きていくことができる基本的な資質を培うこと」を教育理念として実践している。この理念は「障害のある人も、ない人も、お互いを認め分かり合いそして共に生活していこうとする態度の育成」と共通すると考えたとき、Kくんを認め共に学び共に育つ交流学級の子どもたちの態度に、納得できるものがあった。校門のそばの教育碑「共に育ちましょう」の精神に近づけたかなとうれしい気持ちがしたものである。

今、教育理念について様々な提言がなされているが、「共に育つ」という理念は、時代を超えて受け継がれていくものと考ええる。これからの特別支援教育が、LDやADHD等、対象者の枠が広げられる教育現場で、「共に育つ」共生の認識は、どの子どもにも、どの教師にも、どの保護者にも、どの地域にも、大切なことであると考ええる。

今後、それぞれの教育現場での「共に育つ」実践を大いに期待するものである。

秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会役員

<平成18・19年度>

会 長 (1名)		高 橋 恒 治
副 会 長 (2名)		石 井 辰 徳 嵯 峨 裕 子
運 営 委 員 (3名)	県北 県央 県南	松 橋 英 雄 本 郷 光 鈴 木 恒 久
監 事 (2名)		未 定 (県央会員に依頼予定)

平成18年度の事業

- ◇平成18年4月28日(土) 合同役員会 <中通小学校>
- ◇平成18年6月2日(金) 総会・懇親会
- ◇平成18年8月10日(木)・11日(金)
第34回秋田県聴覚・言語障害教育研究大会
会報1号発行計画及び親睦研修会計画
- ◇平成18年11月15日(水) 平成18年度会報1号発行
- ◇平成18年11月18日(土)・19日(日)
OB会研修会<能代温泉 のしろ> 6名参加
OB会主催研修会の計画・会報2号発行計画
- ◇平成19年 1月 OB会主催研修会
- ◇平成19年 2月 会報2号発行

運 送~~~~~

*会費納入について

10月までの納入率は75%です。お忘れの方は早めにお問い合わせください。(嵯峨)

*会報原稿の募集について

原稿をお寄せくださるようお願いいたします。011-0933 秋田市将軍野堰越 16-4 (本郷光)

潭々

秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会会報

平成19年2月発行

石ばしる垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも <志貴皇子>

聴言研OB会「親睦の集い」

北秋田市 松橋 英雄



平成18年度新規事業として計画されました「親睦の集い」が、11月18日(土)～19日(日)県北会場として国民年金健康保養センター「のしろ」で開催されました。

参加者は、高橋恒治会長、石井辰徳副会長、遠藤昌夫ご夫妻、梅田信彦先生、塚本寿之先生、そして小生と7名でした。

特に遠藤昌夫先生は「OB会の親睦会は発足当時の願望」であったとのことで、夫妻で遠路参加してくれました。

温泉で疲れを癒した後、「親睦の集い」を開催。高橋会長から「OB会発足11年目の新規事業である親睦の集いが開催できたことは大変うれしい。今後OB会が充実した活動ができるようにお互いにアイデアを出し合いながら進めていけるようにしたい。」と挨拶。塚本先生の音頭で乾杯。少人数の参加であったが、発足当時の懐かしい顔ぶれとなったので当時の思い出話が尽きませんでした。

全国大会開催に向けて遠藤先生の自宅に泊まりながら準備作業に取り組んだこと、全県一致団結して大会成功のために取り組んだことなど。また、発足当時は会員の確保、事業の進め方、OB会の存在を現場にアピールするために取り組んだことなどが話題となりました。

また、OB会の今後の事業計画についても話し合いました。冬季に計画されました「自主企画研修」については、一年間のまとめの時期に入る頃になるのでメリットがないのではとの意見で、むしろ、効果的に実施するためには「初めて担当」する先生たちに参加を呼びかけ、不安や悩みを少しでも和らげてあげることが大切ではないか。そのためには、4月の一段落した頃に宿泊研修として開催し、この研修が秋田県聴言研の総会や一泊研にもつなげることができるのではないかとのことから、4月下旬の土曜日開催として、会場をウェルサンピア秋田を予定し問い合わせることにしました。

次回のOB会「親睦の集い」をこの研修の日程に組み入れることによって、「総会」「自主研」「懇親会」の三つがまとまり、参加しやすくなるのではないかと期待を込めて計画することにしました。

話し合い後、高橋会長から「OB会のテーマソングがあればよいのではないか」との提案があり、「青春のたまり場」あさみちゆき歌/阿久悠作詞/杉本慎人作曲を高橋会長が替え歌にしたのを参加者全員で歌いました。今後OB会のテーマソングとすることにしました。

替え歌を何度も参加者全員で歌い、お互いに今日の「親睦の集い」の成果を確かめ合いながら、今後OB会がさらに充実した活動ができるように誓い合いました。

少人数の参加であったが、OB会発足当時の思い出から課題、さらにOB会の今後の活動の在り方など話し合いができ、実りある有意義な「親睦の集い」でした。

高橋会長からいただいたOB会テーマソング原曲『青春のたまり場』のカセットテープを聞き、楽しかったひとときを思い出しながら今後のOB会がさらに充実した活動ができるものと述懐しています。

替え歌 「おらだのたまり場」 ♪♪♪♪

1. 本音がぶつかれば 時に傷つけ
その後で悔いながら 少し詫びたり
かけがえのない時代 ともに過ごした
あの教室（へや）も3月で 閉めるそうです

もう誰も希望など 語らなくなり
カサカサに乾いて 意欲薄れて
おらだのたまり場も 閑古鳥鳴き
マスターも苦笑い 見せるだけです

* もう一度 あの場所で 逢いませんか
泣きながら さよならを 言いませんか
l a l a

2. 続けた人もおり 辞めちゃった人も
夢破れ 酒を飲み すさんだ人も
夜明けまでただ一人 愚痴った人も
どれもみな おらだのひとコマですな

今はもうそれぞれが 人生送り
振り返ることさえも 珍しくなり
色あせた思い出と わかっている
この気持ち（手紙）どうしても お届けします

もう一度 あの時代（とき）と 逢いませんか
マスターに ありがとう 言いませんか
l a l a

* 繰り返し ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

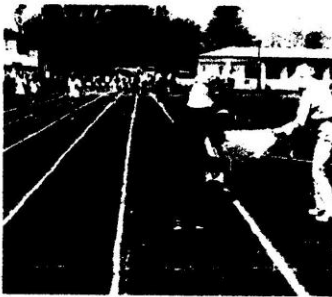
小学校の実践から

男鹿市立北陽小学校 嵯峨裕子

本校は、男鹿市北部4校が統合となった新設校である。加茂青砂戸賀湾、入道崎から北浦に及ぶ広大な自然と豊かな文化に恵まれた学区であるから、人はここを『お宝の山』の学校と呼ぶ。少人数ではあるが特殊学級が2クラス、エレベーターを備えた肢体不自由児対応の学級と知的障害学級である。長年様々な形で特殊教育に携わってきた者としては、担任の熱意ある実践に触れ、嬉しい限りの一年を過ごすことができた。

それは、いわゆる指導の創意工夫であり、職員室の空気である。教育センターで開催していた特殊学級新任研修講座でよく出された悩みは、「何をしたいかわからない」、「校内で孤立している」ことであつたから、この点でも、当該の子どもたちは恵まれた環境の中で学んでいる。当然、口に出さない苦勞も推測できるが、分掌を理解し、やるべきことを覚悟し、しかも、やる以上はよくやろうとする教員の姿勢が頼もしい。

5月の運動会。車椅子のA子が同学年の仲間と共に競技に参加することは当たり前で、あとはその方法について論議するだけという職員の動き。ゴールを目指し、テープを切る体験をさせたい思いで様々な試行と準備があつたが、地域出身の生活サポート事業非常勤職員Bさんの協力も大きかつた。通常の学級に在籍する特別の支援を必要としている子どもたちに対するサポートのみならず、お互いを受け容れることのできる人格形成のためにと、週1回は学年順番に読み聞かせをしながら勤務し、特殊学級担任と子どもをもサポートしたくれた。「子どものために」という姿勢が共感を呼び、協働体制が生



まれ、それが周囲の子どもたちを元気付けていた。

そして、6年2組の実践。『お宝の山』のお宝の一つは、話題となつたあのGAOである。校外に出て人と接し、あいさつができるようになり、コミュニケーション能力を高めたい、それに進路指導を考えて、と水族館での給餌作業を年間を通して体験させていただいた。館所員のチームを組んだ受け容れ体制の中で期待以上の成果があつた。何より、通常からの情報と機会を逃さぬ意気込み、計画性、〇〇ができるための教材・教具の工夫が効いた。

18、19の2年度にわたる県校長会調査研究委員会のまとめによると、「コーディネーターの設置及び個別の指導計画の作成・活用」に関しては各校の取り組みが進んでいるが、課題は「人」とであると報告している。定数配置プラスαの人材と関係専門機関の人材活用が挙げられている。併せて、当該児童も周囲の児童も共に成長している背景は「全校体制」であるとも述べている。

今、教育現場は、ますます多忙化し、教員にゆとりがなくなっていることを実感している。しかし、加配の叶わない中での「ないものねだり」をするわけにはいかない。

特殊学級を経験した上記のような教員が、今後、経験者として学校の要となり、通常の学級での特別支援教育を推進してくれると期待しているこの頃である。

(* ^ _ ^ *) (* ^ _ ^ *) (* ^ _ ^ *)

お知らせ

◇18年度の会計監査は、鎌田誠さん・松山恵理子さんをお願いすることになりました。

◇会員の動静

・新会員を紹介します。

目黒知子さん：秋田市茨島7丁目11-26 【018-823-2595】

永田修さん：由利本荘市岩城亀田愛宕町字代官小路5-2【0184-72-2500】

・遠藤昌夫さんの電話番号が変わりました。 【0184-22-2743】

◇18年度の会費を次の会員からいただいております。（19年2月現在）

石井辰徳	石川 勲	伊藤 薫	梅田信彦	遠藤昌夫
柏原美代子	鎌田 誠	河田美智子	黒澤洋子	嵯峨裕子
鈴木恒久	高井俊博	高橋かすみ	高橋恒治	高橋真理子
塚本寿之	長門章	納谷宜直	浜田啓子	平田謙一
本郷 光	松橋英雄	松本チエ子	松山恵理子	目黒知子
山田芳男	永田 修			

<27名> *お忘れの方は、嵯峨裕子副会長までご連絡ください。

◇19年度OB会総会等について（一次案内）

4月21日（土）・22日（日）、ウェルサンピア秋田（旧岩城町）で「総会」「研修会」「懇親会」を予定しております。ぜひご参加ください。

◇今後の大まかな事務局の日程

- ①会報1号と2号を、県聴言研の会員あてにも送ります。（3月中旬に中通小学校から県内44カ所の会員所属校に発送予定）
- ②3月、OB会員あてに4月総会等の二次案内をし、参加の有無を返信してもらいます。締め切りは3月末日
- ③3月中旬、通級指導教室設置校に4月の研修会の案内をし、参加を募ります。特に、新しい担当者が配置された学校にはOB会から連絡します。締め切りは4月12日
- ④3月下旬に18年度の会計監査を行います。

潭々

秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会会報
平成19年8月発行

田や麦や中にも夏のほととぎす (芭蕉)

閑かさや岩にしみいる蟬の声 (芭蕉)



「自主企画研修」そして「特別支援教育」

副会長 石井辰徳

去る4月21日(土)、22日(日)の二日間に亘って開催した初めてのOB会自主企画研修会は、盛会のうちに無事終了しました。参加者は、辻久視言障協・親の会会長、羽川誠県聴言研会長はじめ、OB会員8名、現職の聴覚・言語障害教育会員17名の計27名でありました。第一回の自主企画研修会としては予想を上回る参加者があり、大変有意義な実りある研修会となりました。現役の先生方がこのように多く参加されるということは、やはりこの教育に関する研修の機会が少ないということ、先輩からの継承を強く望んでいるということを示すものであり、改めて、OB会の存続は極めて適切な判断であり意義深いことであつたと、皆さんと共に喜びたいと思います。

さて、特別支援教育がスタートしてから4ヶ月経ちました。これに伴い学校現場は多忙を極めております。特に、特別支援教室(旧通級教室)を担当している先生方は、想像以上の忙しさに追われております。発達障害の子供たちも通うようになり人数が多くなるとともに、教材研究・教材準備等までまさにおおわらわといった状態であります。「これまで勉強したことがない発達障害の勉強をしなければならないのだが、研修に行きたくても学校を空けることが出来ないのではないか」と心配する先生もおられます。また、子供たちの障害も実に多様であり、数少ない研修ではとても十分に対応していくことが出来ない難しい状況であります。こうした状況を見るに、このOB会企画の研修会の必要性を一層強く感じ取るとともに、内容の一層の充実を図ることが求められているように思います。夏の一泊研には是非とも多くのOB会員が参加し、これらのことについて協議出来ればと思います。

ところで、特別支援教育は今のところ実践が先立ち、その理念はあまり語られていません。しかし、私は、この理念こそしっかりと語られ、学校現場に浸透させていかねばならぬものと思っております。すなわち、特殊教育の時代は「インテグレーション」といって、通常学級に措置された子供は、その状況にうまく適応するように変わること、順応することが期待されてきました。これからの「インクルージョン」は、障害を授かった子供が通常学級に置かれた時、可能な限り完全にクラス参加できるように環境の方を調整することが求められています。それは当然、「障害を授かった子供の人権・人格をきちんと尊重し、ほかの子供たちと同じように平等に受けとめ、真の教育愛(アガペ)を持って接する」ということが前提となります。これこそまさに特殊教育の理念であり、「特殊教育は教育の原点である」と言われてきた所以でありました。教育が混迷している今、また、特別支援教育を通して日本の教育を正しい方向に導いていく時であります。その先頭に立つ先生方を支援できることを喜びとし、OB会員一同力を合わせて支援していきたいものと思います。

第35回秋田県聴覚・言語障害教育研究大会

<仙北市>

大会主題

「一人一人の教育的ニーズに応じた難聴・言語障害教育の推進」
～子どもの力を生かしてのばす、特別支援教育を目指して～

<8月2日(木)>

□講演

講師 独立行政法人国立特別支援総合研究所
企画部主任研究員 牧野泰美先生
演題 「難聴学級・通級指導教室における
個に応じたコミュニケーション能力の育てかた」

□開会行事

- ・聴言研究会あいさつ(中通小学校長)
- ・来賓あいさつ
- ・実行委員長歓迎のことば(角館西小学校長)

□分科会Ⅰ～よりよい教室の運営を目指して～

難聴学級部会・通級指導教室部会に分れ、主に経営面の情報交換

<8月3日(金)>

□分科会Ⅱ

難聴学級①(主に自立活動)

指導助言者 特別支援教育課 障害児教育相談員 石井辰徳

難聴学級②(主に教科指導)

指導助言者 特別支援教育課 指導主事 新井敏彦

言語通級①(主に構音障害)

指導助言者 元本荘由利特殊教育地域センター指導員 遠藤昌夫

言語通級②(主に言語発達遅滞についての指導)

指導助言者 増田小学校教諭 小林牧子

LD/ADHD通級①②合同(主に学習指導・社会生活の指導)

秋田県教育専門監 松井克彦
仙北出張所 指導主事 鎌田 誠

□閉会行事

- ・開会のことば(中通小学校長)
- ・全体講評 教育専門監 松井克彦
- ・閉会のことば(朝倉小学校長)

平成19年8月2日・3日の二日間、仙北市の「角館樺細工伝承館」と「たざわこ芸術村温泉ゆぼぼ」で上記の研究大会が開かれました。OB会からも、石井辰徳副会長ほか4名が参加しました。

講演講師の牧野先生は平成12年にも本会で講演しているとのことでした。多分にユーモアや本音を交えてお話してくださいました。

「通級の教室のよさ」には、たまに会うよさ、十分なやりとりができるよさ、比較しないよさ、通常の学級とは異なったまなざし、自己発見(回復)、開くよさと閉じるよさがあるとのこと、参加者全員が自分たちの役割を確認できました。また、「人と人が繋がったところに言葉は生まれ育まれる」との言葉も印象に残りました。(本郷光)

聴覚・言語障害教育研究会OB会総会から

平成19年4月21日(土)

於：ウエルサンピア秋田

□ **平成18年度OB会収支決算について**

収入総額 66,760 円
 支出総額 42,105 円
 差引残額 24,655 円

<収入の部>

項目	予算額	決算額	増減	適要
1 繰越金	12,751	12,751	0	前年度より
2 会費	50,000	54,000	4,000	27名分
3 雑収入	0	9	9	利子
合計	62,751	66,760	4,009	

<支出の部>

項目	予算額	決算額	増減	適要
1 事務費	13,000	2,820	△10,180	封筒ほか
2 通信費	15,000	19,285	4,285	切手代ほか
3 会議費	6,000	0	△6,000	
4 研修費	20,000	20,000	0	聴言研助成
5 雑費	5,000	0	△5,000	交通費
6 予備費	3,751	0	△3,751	
合計	62,751	42,105	20,646	

□ **平成19年度OB会予算について**

収入総額 74,656 円
 支出総額 74,656 円
 差引残額 0 円

<収入の部>

項目	本年度予算額	前年度予算額	増減	適要
1 繰越金	24,655	12,751	11,904	18年度より
2 会費	50,000	50,000	0	25名分
3 雑収入	1	0	1	利子
合計	74,656	62,751	11,905	

<支出の部>

項目	本年度予算額	前年度予算額	増減	適要
1 事務費	10,000	13,000	△3,000	封筒ほか
2 通信費	20,000	15,000	5,000	切手代ほか
3 会議費	6,000	6,000	0	
4 研修費	30,000	20,000	10,000	謝礼等
5 雑費	5,000	5,000	0	交通費ほか
6 予備費	3,656	3,751	△95	
合計	74,656	62,751	11,905	

□ 平成19年度OB会特別会計について

収入総額 111,781 円
 支出総額 111,781 円
 差引残額 0 円

<収入の部>

項目	本年度予算額	前年度予算額	増減	適要
1 繰越金	81,780	81,776	4	
2 他収入	30,001	0	30,001	寄付30,000円 利子1円
合計	111,781	81,776	30,005	

*寄付30,000円は、親の会会長辻久様からです。ありがとうございました。

<支出の部>

項目	本年度予算額	前年度予算額	増減	適要
1 研修費	15,000	0	15,000	研修会会場費
2 予備費	96,781	81,776	15,005	
合計	111,781	81,776	30,005	

□ 平成18-19年度OB会役員

会長(1名)	高橋恒治
副会長(2名)	石井辰徳
	嵯峨裕子
運営委員(3名)	松本英雄
	鈴木光久
	山本恒久
監事(2名)	松山恵理子
	鎌田誠

平成19年度の事業

- ◇平成19年4月21日(土) 総会・懇親会
- ◇平成19年4月24日(火) 合同役員会 <中通小学校>
- ◇平成19年8月2~3日 聴言研究大会(一泊研)・秋季親睦会計画
- ◇平成19年8月 会報1号発行(一泊研について、会費納入依頼)
- ◇平成19年11月 秋季親睦会
- ◇平成19年12月 会報2号発行
- ◇平成20年1月 紙上運営委員会(年度反省、新年度に向けて)
- ◇平成20年3月 会計監査

□ 平成19年度OB会会費納入について

平成19年度分の会費の納入をお願いします。送金方法は、郵便振替にて次の宛先に送金してください。

02260-2-76445 秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会

潭々

秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会会報

平成20年3月発行

かたくりの花咲き風の斜面かな (伊藤敬子)
片栗の淡むらさきを愁ひとも (本庄百合子)
かたかごや我に故郷のあるごとく (寺澤慶信)



聴覚研OB会秋季親睦会だより

鈴木恒久

11月17日、晩秋の趣が強く感じられる中、「山と川のあるまち」横手市のかんぼの宿にて平成19年度の県聴覚・言語障害教育研究会OB会秋季親睦会が開催された。参加者は4名と少なかったものの、今後の本会の運営等について熱心な協議がなされ、部屋の暖房とあいまって暑さもヒートアップし、窓を開けたならば鳥海山の雄姿がくつきりと目に鮮やかに飛び込んできた。また、話題提供タイムでも趣味の域を超え達人の域にまで達した素晴らしい取り組みを知ることができたりと、有意義な時間となった。

<協議概要>

1. 春の研修会は、現職の先生方(特に初めてことばやきこえの担任になった先生方)にとって指導にかかわって知りたいことや悩み等について指導助言をもらえる機会であり、できるだけ早い時期での開催が望ましいのでは。
2. 夏の一泊研修は、OBも数多く参加の上、現職の先生方への指導助言に当たるとともに親睦を深め、絆やネットワーク作りに努めたい。
3. 秋の研修は、懇親を主としたOB中心の会として行っていきたい。来年度は中央地区が担当となる。

<話題提供タイム>

①仏像彫刻「救世観音を彫る」 遠藤昌夫

仏像作りに取り組みしばらくなるそうで、今回は作品作りの実際について材料や図面(設計図)をもとに詳しくお話いただいた。高校生の頃、日本史の学習で仏像の「寄せ木づくり」とは一体どういうことなのか分からずじまいだったが、今回その疑問がすっきりと解明した。簡単に言うと、材料である角材を接着したものが寄せ木にあたり、それらを彫って作るので「寄せ木づくり」ということであった。また、写真で素晴らしい作品を見せていただき、その迫力・力強さと緻密さ・やさしさに大きな感動を覚えた。

②特別支援教育の現状について 鈴木恒久

大仙地区の特別支援教育に関する情報提供をもとに情報交換が行われた。就学指導に関しては、親の教育力の低下や育児放棄等が見られ、就学にかかわり諸関係機関とのかかわりも少ないまま就学を迎えているケースもあり、就学前教育の在り方や幼小連携・小中連携についても話題となった。また、保護者は通常学級への入級並びに支援員配置の要望がとて強く、支援員を「我が子への支援のための先生」としてとらえ、支援内容や方法について様々な要求を求めため、その対応に苦慮しているケースが増加しつつあることや、特別支援教育コーディネーターの働きと学校指導体制等の実態についても話し合った。

③サン仮名へのいざない 高橋恒治

「サン仮名」と呼ばれる速記法について、高橋恒治氏が講師となり実技体験をした。「サン仮名」は、かな文字から導かれた符号で覚えやすく流れるような美しい線を書くもので、五十音をすべて一画の符号で続けて横に書けるため速く、書く線量も少なく疲れにくいといった長所がある。こんな速記法があることを知り、文字に対する心地よいカルチャーショックを受けた。

**秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会
平成20年度総会並びに主催研修会（第1次案内）**

次のとおり開催します。一部参加も歓迎します。

1 開催期日、会場

- ①開催期日 平成20年4月19日（土）、20日（日）
- ②会場 秋田市「大町ビル」（ウエルサンピア秋田は3月末で閉館）

2 総会・研修会日程

第一日目	10:00～12:00	教室経営の課題に答える時間
	13:00～14:30	今日的課題についての講話
	15:00～16:30	課題別協議①
	14:45～17:30	OB会総会
	18:00～20:00	懇親会（希望者のみ）
第二日目	9:00～11:00	課題別協議②

3 総会に向けて運営委員会及び会計監査

- ①期日・会場 3月29日（土）イヤタカ
- ②内容 ア 総会の資料検討
イ 会計監査
- ③その他

お知らせ

◇会員の動静

- ・4名の方が新しく会員になっております。よろしくお願いたします。
羽川 誠 秋田市泉中央5丁目4-12
高橋香代子 大仙市上鶯野字小沢田70
小林 牧子 横手市平鹿町上吉田字四ッ屋39-5
井上 朝子 紫波郡矢巾町大字西徳田第4地割9-39
- ・3名の方が退会します。これまでご協力ありがとうございました。
高橋かすみ 納谷宜直 目黒知子

◇19年度の会費を次の会員からいただいております。(20年1月現在)

石井辰徳	石川 勲	伊藤 薫	梅田信彦	遠藤昌夫
川井育子	黒澤洋子	嵯峨裕子	高野一志	高橋恒治
長門章	浜田啓子	本郷 光	松橋英雄	松本チエ子
松山恵理子	目黒知子	高橋香代子	永田 修	羽川 誠
井上朝子	<21名>			

*すでに送金済みの方はご容赦ください。
*お忘れの方は、郵便振替にて次の宛先に2,000円送金をお願いします。
02260-2-76445 秋田県聴覚・言語障害研究会OB会

◇今後の大まかな事務局の日程

- ①会報1号と2号を、県聴言研の会員あてにも送ります。(3月中に県内42カ所の会員所属校に発送予定)
- ②3月、OB会員あてに4月総会等の案内をし、参加の有無を返信してもらいます。締め切りは3月末日
- ③3月中旬、通級指導教室設置校に4月の研修会の案内をし、参加を募ります。特に、新しい担当者が配置された学校にはOB会から連絡します。締め切りは4月12日

◇聴・言研OB会の会員を募集しています

これまで聴覚・言語障害教育に携わってきた方で、OB会に入会する方はおりませんか。ありましたら、高橋恒治会長までご連絡ください。

〒019-2613 秋田市河辺松淵字川原田家ノ後1-15 TEL 018-882-5036

インクルーシブ教育の実現を目指して ～個のニーズへの対応と集団づくりをキーワードに～

秋田県総合教育センター 本郷 光

19文科初第125号通知「特別支援教育の推進について」には、特別支援教育の理念として、第一に、障害のある全ての幼児児童生徒の自立や社会参加に向け一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び支援を行うものであること、第二に、これまでの特殊教育の対象だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実現されるものであること、さらに、第三として、特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び未来の社会にとって重要な意味をもっていると示されている。

秋田県では、通常学級において学習面や生活面で困難を示す児童生徒は、平成18年度の調査によると、小・中学校では1.8%在籍するとされている。こうした支援を必要とする児童生徒への教育実践は、現在、各学校・園でも取り組まれている。

また、支援を必要とする児童生徒への、その生きにくさに対する指導や支援の在り方も開発されてきており、当センターでも研修講座や公開講演でこの内容を取り上げてきた。今年度はこれらの研修に多くの参加者があり、関係者の関心の高さがうかがわれる。また、各特別支援学校でも特別支援教育のセンター的機能を発揮して、小・中学校等への支援に努めているところである。

ところで、支援が必要な児童生徒の状況の改善に関しては、対象児童生徒への指導や援助だけでは抱えている困難さの改善が難しいと思われる場合が多い。つまり、対象児童生徒が仲間として一緒に過ごす集団も同時に育てていく必要があるということである。

当センターの特別支援教育班に、今年度小学校からは2名の研修員が配属されており、それぞれ、学習面で困難を抱える児童と、生活面で困難を抱える児童に焦点を当てて研究を行った。

学習面で困難を抱える児童に対しては、その認知特性を踏まえた支援の手立てを工夫して一斉授業をすることで、対象児童はもちろん、学級全体の子どもたちから「分かりやすい授業」として歓迎された成果を確認することができた。また、生活面で困難を抱える児童の指導においては、対象児への個別の指導と学級全体へのソーシャルスキルを実施することで、対象児の集団行動への参加態度が向上したとの成果を確認している。

さて、前述の通知には、理念の次に校長の責務として次のように示されている。

「校長は、特別支援教育実施の責任者として、自らが特別支援教育や障害に関する認識を深めるとともに、リーダーシップを発揮しつつ、体制の整備等を行い、組織として十分機能するよう教職員を指導することが重要である。また、特別支援教育に関する学校経営が特別な支援を必要とする幼児児童生徒の将来に大きな影響を及ぼすことを深く自覚し、常に認識を新たにして取り組んでいくことが重要である。」

多様な子どもたちが、お互いを認め共に学び共に育つインクルーシブ教育の実現のためには、個のニーズへの対応や共に学ぶ集団を育てていくことが、今、学校に求められていることと考える。そのため、個別の指導や支援の在り方をさらに探求していくことや、関係者へのさらなる理解と啓発をしていくことが私たちの今後の課題と考えている。

潭々

秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会会報
平成20年7月発行



「ことばの教室」 黎明期のお話

OB会 遠藤昌夫

運命的な出会い

昭和四十年十一月、その頃、私は、由利郡矢島小学校金が沢分校に勤務してい
ました。一か年六で三年生の復々式学級です。私にとっては、楽しくやり甲
まのあつた父を戦争で亡くした母子家庭の嫡子ですから、いつまでも辺地勤務をし
て転任を希望していた頃、の事。母もろ家に帰らなければと特殊学級担当を条
件として、希望を私に「言語障害」「聴覚障害」などという用語は全く知りません
で、このことばで困っている子ども達がいることなど露ほども知りませ
ん。それが、言語障害児学級「ことばの教室」新設に向けて、国全体が大きく動
いた。秋田県も上り、政治は昭和四十一年十月二十日、親がだも児童会館
よのおいご、現秋田県立こどもセンターの会、育て親の会、会長の久視氏と仲間の
田書お、障害児を逃がさず、秋田県立こどもセンターの会、育て親の会、会長の
ゆるそ、二日（木曜）「実態がまじり、同行は神気迫り、なごも
月な八（木曜）「実態がまじり、同行は神気迫り、なごも
にスベ（木曜）「実態がまじり、同行は神気迫り、なごも
に児よ（木曜）「実態がまじり、同行は神気迫り、なごも
に政へ（木曜）「実態がまじり、同行は神気迫り、なごも

① ことばの教室 県内にはない
② 読めなかつた 答辞…ドモリが消えていった
③ 忘れられたい 対策 不治でない障害 治療・訓練でなおる
④ それ私に通職 情熱貫いた十三年 一筋に子らに喜びを
（仙台市通町小学校 浜崎健治先生）
⑤ 勇気と決断 親に訴える会長さん
（現秋田県とばを育てる親の会 辻久視会長）
⑥ 三ッ口は防げ 遺伝ではない
⑦ 「ことばの教室」親の会 結成に向けて 日夜かけまわる ベトコン会長の

大きな区切り（10年）と過渡期を迎えたOB会でしたが……存続の方向で

11年目<平成18年度>を迎え、①事務局をOB会が運営 ②親睦事業を県北・能代市を会場に初めて実施。親睦の集まりなかで、OB会主催研修が話題になり早速実現に向けて動きました。

また、県聴言研への支援を「OB会主催研修会開催」に替えることにしました。

12年目。これまで県聴言研の総会と同日に開催していたOB会総会を、新規実施のOB会主催研修会（4月末開催）と併せて行いました。秋、2回目の親睦会を県南・横手で開催するも、参加者が限られて……。つながりの薄さを強く思われました。

平成20年度 秋田県聴覚・言語障害
教育研究会 研修会・総会

5月22日開催されました。

総会では、会則の文言改定が。

①「聴覚・言語障害特殊学級なら
びに『通級による指導の場』」
⇒「難聴特別支援学級・通級
指導教室」

② 担当教職員 ⇒ 担当教員
研修Ⅰは情報交換会「きこえと
ことばの指導の実際」

研修Ⅱは講演では、秋田大学の
武田篤教授が「特別支援教育を担
当する教師の専門性な何か？」に
「自閉症スペクトラムに対する正
しい理解と適切な支援である」と。

◆研究大会<夏の一泊研>は、
10月の特別支援教育東北大会に
合わせて大館で開催することに。

13年目<平成20年度> OB会総会・自主研修会

やはり年度初めの開催を目指し、現場の要望を基に、ネットも活用し呼びかけました。自主研修会は「講義と協議」の受身形式ではなく、自身の課題をぶっつけてもらう時間を多く設定しました。県教委担当者の参加が大きな支援となりました。

現場を離れた人の力を生かすこと、会費のほかペンの力を借りて会員が「つながる」こと。さらにもっとつながるためには、今の教室担当者が教室を離れてもOB会に所属し、この道の成功、失敗を後輩に伝える（つながる）方向が重要ですね。

一人が一人以上に働きかける。これからの課題です。

武田先生からいくつか参考書が紹介されました。

「発達障害の子どもたち」杉山登志郎著 <講談社現代新書>

もそのひとつ。発達障害を四つのグループに分け、第四のグループに「子ども虐待」を。「特別支援教育」を受けた、受けて来ないの事例を比べて紹介し、この教育の意義を強調しています。

武田先生は3年前の研究大会でも「ディスレクシア」（読み書き障害）が知られていないことを話されましたが、今回もこの障害が学習障害の中心であることを強調されました。

「隣人祭り」 フランスで始まった活動がこの5月、日本に初上陸。

「隣人祭り」新宿御苑2008

6月17日のNHKクローズアップ現代で紹介されました。

「僕が『隣人祭り』を立ち上げたのは、孤独は引きこもり、無関心といったものに抵抗するためでした。地球の向こう側にいる見ず知らずの人たちとはネットで繋がろうとするのに、近くにいるお隣さんにはこんにちはと声をかけようとしません。なんともおかしい世の中に僕たちは住んでいます。……この祭りをとおして、ご近所同士のおつき合いが深くなり、家族のあり方や慣習などを考え直すきっかけになれば嬉しいです。……」

<18年前 動き始めた青年3人の一人 アタナーズ・ペリファン>

秋田県聴覚・言語障害教育研究大会について

例年夏に行われていた上記研究会は、今年度、第46回東北特別支援教育研究大会秋田大会と兼ねて行われることになったようであります。

日程等は下記のようになっております。

是非、OB会員も参加して、研究会を盛り上げていきたいと思っております。後日、再度ご案内を差し上げますが、今から心に留めておいてくださるようお願い致します。

記念講演

演題	「特別支援教育の動向と新学習指導要領」
講師	文部科学省特別支援教育課 特別支援教育調査官 石塚謙二氏

日程

【1日目】10月23日（木） 大館市民文化会館

11:00	12:00	12:30	13:30	14:30	14:50	16:20	18:00
理事会	受付	全体会 開会式・表彰式		記念講演	移動	情報交換会	

【2日目】10月24日（金）

1, 2, 5, 6, 7分科会

◎ 公開授業（小・中学校交流授業）	大館市中央公民館（体育館）			
◎ 授業ビデオ放映[情緒障害]	大館市民文化会館（第3練習室）			
◎ 授業ビデオ放映[聴覚障害]	大館市民文化会館（リハーサル室）			
9:00	9:30	10:15	10:30	12:30
受付	公開授業 小・中学校交流授業 ビデオ放映[情緒・聴覚]		研究協議	

3, 4分科会

◎ 公開授業（小学部・中学部・高等部）	秋田県立比内養護学校			
9:00	9:30	10:20	10:30	12:30
受付	公開授業 小学部・中学部・高等部		研究協議	

分科会

	分科会名	会場
第1分科会	知的障害教育（小学校）	大館市中央公民館 第1研修室
第2分科会	知的障害教育（中学校）	大館市中央公民館 第2研修室
第3分科会	知的障害教育 特別支援学校小学部	秋田県立比内養護学校
第4分科会	知的障害教育 特別支援学校中・高等部	秋田県立比内養護学校
第5分科会	情緒障害教育	大館市民文化会館 第3練習室
第6分科会	聴覚・言語障害教育	大館市民文化会館 リハーサル室
第7分科会	発達障害	大館市中央公民館 視聴覚室



平成20年・21年度 役員

会 長 高橋 恒治
 副会長 石井 辰徳
 嵯峨 裕子
 運営委員 松橋 英雄(県北)
 本郷 光(中央)
 鈴木 恒久(県南)
 監 事 鎌田 誠
 松山 恵理子
 永田 修

平成19年度 秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会収支決算書

収入総額	82,670 円
支出総額	61,328 円
差引残額	21,342 円

(収入の部)

項目	予算額	決算額	増減	摘要
1 繰越金	24,655	24,655	0	18年度分より
2 会費	50,000	58,000	8,000	29名分 (重複1名)
3 雑収入	1	15	14	預金利息
合計	74,656	82,670	8,014	

(支出の部)

項目	予算額	決算額	増減	摘要
1 事務費	10,000	8,028	△ 1,972	封筒ほか
2 通信費	20,000	11,500	△ 8,500	会報等郵送
3 会議費	6,000	3,000	△ 3,000	運営委員会
4 研修費	30,000	31,800	1,800	講師謝金ほか
5 雑費	5,000	7,000	2,000	委員会旅費
6 予備費	3,656	0	△ 3,656	
合計	74,656	61,328	△ 13,328	

(特別会計報告)

項目	取入	支出	差引残高	摘要
1 繰越金	111,834			特別会計通帳 に貯金
2 利息	187			
合計	112,021	0	112,021	

平成20年度の事業

- ◇ 平成20年4月19日～20日 総会・自主研修会(大町ビル)
親睦会
- ◇ 平成20年7月 会報1号発行(年度計画、会費納入依頼)
- ◇ 平成20年10月23日～24日 東北特別支援教育研究大会秋田大会
秋季親睦会
- ◇ 平成20年1月 運営委員会(年度反省)
- ◇ 平成20年2月 会報第2号発行
- ◇ 平成20年3月 会計監査

平成20年度 秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会予算

収入総額	71,343	円
支出総額	71,343	円
差引残額	0	円

(収入の部)

項目	本年度予算額	前年度予算額	増減	摘要
1 繰越金	21,342	24,655	3,313	19年度分より
2 会費	50,000	50,000	0	25名分
3 雑収入	1	1	1	預金利息
合計	71,343	74,656	Δ 3,313	

(支出の部)

項目	本年度予算額	前年度予算額	増減	摘要
1 事務費	10,000	10,000	0	封筒、紙代ほか
2 通信費	15,000	20,000	Δ 5,000	郵券ほか
3 会議費	6,000	6,000	0	会場借用ほか
4 研修費	30,000	30,000	0	講師謝金ほか
5 雑費	8,000	5,000	3,000	交通費ほか
6 予備費	2,343	3,656	Δ 1,313	
合計	71,343	74,656	Δ 3,313	

(特別会計)

項目	収入	支出	摘要
1 繰越金	112,021	0	
2 利息	1		
合計	112,022	0	

お知らせ

◇ 六月に通級教室担当者から研修支援の希望があり、OB会員の梅田信彦先生が出向いてくださいました。大変ご苦勞様でした。今後とも研修支援の希望を積極的に受け入れていきたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力をお願い致します。

◇ 十月の親睦会では、現職の先生方との交流を図りたいと思っております。多数のOB会員の参加を期待しております。

◇ 紙面のカットは遠藤昌夫先生にご協力いただきました。ありがとうございました。

《平成20年度OB会会費納入について》

平成20年度分の会費の納入をお願いします。送金方法は、郵便振替にて次の宛て先に送金してください。

02260-2-76445 秋田県聴覚・言語障害教育研究会OB会

